

シスプラチンの腹腔内投与を行った犬の生殖器系腫瘍3例

土居弘典 森 崇[†] 岩谷 直 渡邊一弘
酒井洋樹 丸尾幸嗣

岐阜大学応用生物科学部 (〒501-1193 岐阜市柳戸1-1)

(2008年7月14日受付・2008年9月22日受理)

要 約

卵巣子宮摘出術および去勢手術後の病理組織検査で、生殖器系腫瘍と診断され、転移が認められたあるいはその危険があった犬3例が、術後化学療法のために来院した。各症例の診断名は、腹膜播種を伴う卵巣腺癌、尿管浸潤を伴う顆粒膜細胞腫、腹腔内リンパ節転移を伴うセミノーマであった。3症例に対しシスプラチン40～50mg/m²を3週間おきに4回ないし5回腹腔内に投与したところ、2例に関しては現在までそれぞれ術後約31カ月および7カ月間転移は認められていない。リンパ節転移が認められた1例に関しては初診時に56.4×26.5mmであった下腹リンパ節が5回投与後に45.7×17.9mmまで縮小した。——キーワード：シスプラチン、腹腔内腫瘍、腹腔内投与。

-----日獣会誌 62, 315～317 (2009)

[†] 連絡責任者：森 崇 (岐阜大学応用生物科学部獣医学講座獣医分子病態学分野)

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 ☎・FAX 058-293-2928 E-mail: tmori@gifu-u.ac.jp